

## 平成 19 年度環境科学センター研究推進委員会指摘事項への対応

課題名 廃棄物最終処分場の適正管理に関する研究

主な指摘事項	環境科学センターの対応
<p>○ 廃棄物最終処分場は社会的関心の高い施設であり、迷惑施設として新規の立地が困難になるような社会状況となっている。その主たる原因は、安全管理に対する住民の不安や不信感にあると考えられる。本研究課題は、その安全管理のための有効な情報を得ようとするものであり、社会的なニーズの高いテーマであるといえる。県営施設を研究対象としているが、そこから得られた成果は民間の施設にもそのまま適用できるものであり、行政的なニーズも高い。</p> <p>20年度以降に計画されている搬入物の前処理方法の検討については、具体的な計画内容の詳細が明らかでないが、単一の処理方法のみでなく、複数の代替案を挙げて有効な方法を絞り込んでいくようなアプローチも必要ではないかと思われる。</p> <p>○ 廃棄物最終処分場は環境汚染リスクをもつ施設のひとつであり、適正管理を行うことが重要です。そのためには、埋立が開始された時点から廃止に至る処分場のライフサイクル全体にわたって運転管理データや浸出水など処分場から環境中に排出される物質の実態を継続的に調査して情報を整理・蓄積し、既存あるいは新設の処分場の管理に役立てることが求められます。</p> <p>本研究は「かながわ環境整備センター」の稼働と合わせて進められており、まさに時宜を得たものといえます。当面は平成21年度までの計画とのことですが、それ以降も必要なデータの収集と蓄積をお願いしたいです。</p> <p>本研究で得られる知見が、調査対象処分場だけでなく他の最終処分場の安全性向上につながるよう期待しております。</p>	<p>○ 搬入物の前処理方法は、現場での実施を考えると複数の手法を試すことが難しいため、あらかじめいくつかの手法の中から実現可能性が高い方法を選択して行う予定です。最良の方法が適用できるよう、さらに情報を集めて検討します。</p> <p>○ 当初計画では21年度までとなっておりますが、ご指摘いただいたように、より長期的な検討が必要であると考えております。継続してデータ収集とその蓄積を行い、他の処分場も含めた安全な維持管理手法の確立に努めたいと考えております。</p>

## 平成 19 年度環境科学センター研究推進委員会指摘事項への対応

### 課題名 廃棄物最終処分場の適正管理に関する研究

主な指摘事項	環境科学センターの対応
<p>○ 廃棄物最終処分場の適正管理は県民の関心が高く、また早期の安定化は処分場を管理する自治体の経済的負担軽減からも強く望まれている重要な課題である。県の管理下の新規処分場においてさまざまな角度からデータ収集をすることの意義は大きい。研究計画も概ね妥当である。</p> <p>○ 廃棄物最終処分場での処理の過程から浸出水の水質が悪化するという、重大な問題でテーマとして緊急性が高い。 さしあたっては、COD 低減化のための緊急対策を実施するほかに、最終的には、キレート処理剤の適否・使用条件を含めて、総合的な検討が必要であろう。 適切な管理方法の早急な確立が望まれる。</p> <p>○ モデル施設としての「かながわ環境整備センター」を研究対象として短期のみならず長期的にも廃棄物の変質過程を追跡する意義は大きい。県の研究施設ならではの研究事業と言える。 無機系の廃棄物のみが受け入れ条件となっているので、浸出液の特性把握に重点がおかれているが、総合的視点がほしい気がする。たとえば、地盤の安定化プロセスの解明のための追跡調査システムを当初から考慮はできないであろうか。また、金属の不溶化のためのキレート処理の長期影響の検討は不可欠と考えられる。専門外であるが、有機化合物の配位子が永久に分解しないなどは考えられようもない。廃棄物処理は、百年、千年、安全なことを目指すべきではなかろうか。</p>	<p>○ 継続してデータ収集とその蓄積を行い、他の処分場も含めた安全な維持管理手法の確立に努めたいと考えております。</p> <p>○ ばいじんの埋め立てに当たっては、含有する鉛を不溶化するためにキレート処理剤が不可欠であり、これが COD 値を上げる原因になっています。新規に開発された薬剤を含めた数種類の処理剤について、すでに使用条件と COD 値の関係を確認しており、事業者にもキレート剤の適否を提案しています。</p> <p>○ 本施設の計画当初は、実験的にフィールドを使用できるように、例えばご指摘いただいた地盤の安定化を追跡調査出来るようなシステムの導入なども検討しましたが、実現には至りませんでした。浸出水やガスのデータに加えて電気探査技術を有効活用することにより、地盤の変化についてもデータ取りをしていく予定です。キレート処理剤については、ご指摘のように長期的には分解している可能性があることが最近の研究で明らかになっております。その一方で、カルシウム化合物との共存により、キレートから外れた重金属類の溶出は抑えられるといった報告も見られます。本施設に持ち込まれている燃えがら及びばいじんにはカルシウムが非常に多く含まれていますが、長期間継続して監視を続けていくことが必要と考えています。</p>